

牧志公設市場衣料部・雑貨部のあゆみ 1951-2022

- 1947 開南文差点近くに闇市が形成される。
- 1948 那覇市場が元公設市場の土地に闇市場の露天商人を集める。
- 1950 那覇市場が市営となる。
- 1951 4月 牧志公設市場雑貨部、第一牧志公設市場が開設。(テナント張り) 8月 牧志公設市場衣料部が開設。
- 1963 牧志公設市場衣料部・雑貨部の瓦屋根で出来た市場が完成。



30年代の瓦屋根の市場



エスカレーター改修入口



40年前の新年会の記念写真(1,2列売場)



S34年、波の上参拝記念。



衣料部2階売場に見た打掛

- 1965 ガープ川暗渠工事完成。水上店舗完成。
- 1969 第一牧志公設市場が不審火で消失。第二牧志公設市場開設。
- 1972 新しくなった第一牧志公設市場が完成。
- 1975 ダイナハがオープン
- 1982 牧志公設市場衣料部・雑貨部改築。平和通りのアーケードが完成。



2階にもあった着物市場



40年前、みんなで喧嘩を撮る。



30年前の雑貨部。



那覇まつり

- 2001 第二牧志公設市場が開場。
- 2005 ダイナハが閉店。
- 2019 第一牧志公設市場の建て替えのため、仮市場へ移転。
- 2021 2月 施政方針において城間那覇市長が牧志公設市場衣料部・雑貨部を21年度末で閉場することを表明。



ソーカチを履いても瓦製に似て、神村さん(3年前に閉店)



パワフル通りから見た衣料部



落ちない口紅、人気者のひとつでした。



帽子もよく売れました。

2022年2月末日をもって、70年の歴史に幕を下ろす。



牧志公設市場衣料部 (きもの市場)

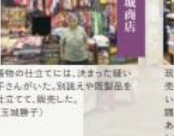
平和通り坂坂入口前にある、全国でも数少ない呉服・着物等の小売り専門店が集まっている公設市場。京呉服、沖縄の織物、浴衣など、季節や行事、冠婚葬祭に合わせた着物が揃っている。全盛期は100小間以上の売り場が並んでいた。



創業70年、店の名前は、おつ子とゆり子の2人で始めたのでおゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



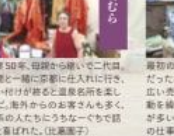
創業60年、母親から継いで二代目。洋服部は京都の問屋に買い付けに行ったり、期待で海外旅行へも。(高志美香子)



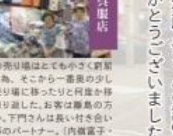
呉服の仕立てには、決まった縫い方がある。おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



玩具の衣装を扱う商売を始めて45年。若いころは世界舞踊の観覧者でもあった。おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



昭和50年、母から継いで二代目。洋服部は京都の問屋に買い付けに行ったり、期待で海外旅行へも。(高志美香子)



昭和の売り場はともかく、おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



親戚が始めたおゆり子。おゆり子とゆり子の2人で始めたのでおゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



衣料部に入って40年。入った頃、呉服屋の専売を上げたが同業の方がいて、よく勉強を覚えた。おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



3代目店主。おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



社名は「おゆり子」で1人で仕上げた。おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



昭和30年代前半、老舗の公設市場衣料部が完成し入居するまで。おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



昭和30年代前半、老舗の公設市場衣料部が完成し入居するまで。おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)

行事ごとでの思い出

- 毎年2回(旧暦2月と8月)の屋敷拝み、市場の周りを参り、牧志、希望ヶ丘公園の拝参を巡り、市場の安全と繁盛を祈願した。
- 毎年1回、運動会、ピクニックも行っていた。
- 那覇まつりの参加で、おゆり子の衣装を仕立て、みんなで着て演習を披露した。
- 新年会は雑貨部と合同で開催、歌をうたったり賑やかで楽しかった。

あの時は、あんなだったよ〜

年末売り出しやカジマーヤなど沖縄の行事の時期には連日夜11時過ぎまで営業していたさあ。

着物の買い付けは京都がほとんどだったが、京都問屋が沖縄まで来てくれて特設会場を設け、そこで仕入れる事もあったよ。

衣料部の中ほどに履物売り場コーナーを設け、その売上げで衣料部組合の必要経費の支払いに充てたりしたさあ。



牧志公設市場雑貨部

平和通りの中ほどにある化粧品、婦人服、雑貨などで構成されている市場。化粧品店での1000円エステサービスが人気。全盛期は70小間ほどの売り場が並んでいた。



現代オーナーのもとで美容部員として勤務し、オーナーご縁で店を継ぎ、(左から)玉城 理香、玉城 ケイ子、西田香代子、新屋6ゆり子



指輪、母と3代目。母が指輪を始めたのが代で親戚に知り、輸入化粧品やマフラークロスの販売を始めた。母の指輪を継いでからは、帽子やスカーフ、アロエ化粧品、エステを専門店に。電話注文、配達も多し。(長岡美津子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



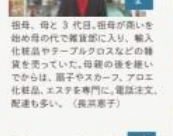
おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



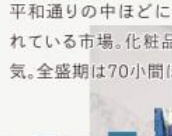
おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



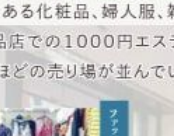
おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



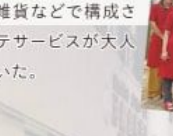
おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



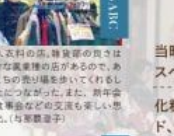
おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



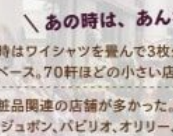
おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)



おゆり子さんがいた。おゆり子やゆり子を社名で、販売した。(玉城洋子)

あの時は、あんなだったよ〜

当時はワイシャツを畳んで3枚分が半間(はんげん)で一人分のスペース。70軒ほどの小さい店ばかりが並んでいたね。

化粧品関連の店舗が多かった。資生堂、カネボウ、ナリス、メナード、ジュボン、パビリオ、オリール、アロエ、カバマークなど。

雑貨部も昔はカバンや靴、花屋、肌着専門店など様々な雑貨を売る店が多かった。

年末売り出しの時期は、連日夜11時過ぎまで営業していた。

公設市場は台風などで何回も浸水している。靴屋の店先には必ずゴム靴を売っていた。当時は必需品だった。

